



十二支の由来

ある時、神様が動物たちを集めて、「お正月の朝、早く来たものから12番目の者をその年の大将とする」と、言いました。猫は、うっかりしていたので、ねずみに尋ねると、ねずみはわざと、次の日を伝えました。ねずみが牛のところに行くと、牛は、「歩くのがゆっくりだから早く出かけよう」というので、ねずみは牛の背中に乗りました。

朝になり、神様の御殿の門まで来ると、ねずみは牛の背中から飛び降りて「私が一番！」とちゃっかり言いました。そして牛が2番。次々とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いのししと順番に入り、その年の干支にしてもらいました。

猫はというと、次の日に行っても誰もいないので、門番に尋ねると、「顔を洗って出直してこい！」と言われました。猫が顔を洗うしぐさをするようになり、ねずみを追いかけるのはこの時からだそうです。



鏡開き

1月11日は、鏡開きです。

お正月にお供えたおもちを割り、おしるこなどにさせていただきます。おもちを割るときに、一年の健康をお祈りすると元気に過ごせると言われています。園児の健やかな成長を願って、園でも

10日には、おやつにぜんざいをいただきます。



非認知能力を育もう!!

新年、あけましておめでとうございます
 昨年は、ラグビー日本代表「ブレイブ・ブロッサムズ」の活躍は、日本中に、にわかラグビーファンをつくり、多くの感動と勇気を与えてくれました。「ONE TEAM」という言葉は、流行語大賞になるほど日本中に浸透しています。また、「今までにないほどの甚大な災害が多かった1年」でもあります。まさに日本中「ONE TEAM」となって乗り越えなくてはならないのでしょう。すいこうも園と保護者、地域の皆さんと「ONE TEAM」となり、楽しい保育へと進化し続けたいと思っています。

さて、昨年11月にかねてからの念願でしたピオトープができました。ピオトープと言ってもうさぎ小屋の横に作った小さな二つの池です。小さな池ですが、できあがった時に年長さんが、黒めだか、どじょう、エビ、やご、たにし、まつもむしなどたくさんの水の生き物を放流しました。めだか博士の清家先生から、「めだかは、目が上についているからおはようとか声をかけると、みんなを覚えて、みんなの所に寄って来るよ。」という話に目をキラキラさせて聞いている年長さんです。今は、寒くて底に沈んでいることが多いめだかさんたちですが、春になるとスイスイと泳ぐめだかさんや、どじょうさんを見ることができましょう。夏になるとやごがとんぼになる瞬間に遭遇できるかもしれません。「ピオトープに落ちたら大変」と思っておられる方もいらっしゃると思いますが、必ず保育者が側にいますので、落ちてしまったらすぐに救出し、大事に至ることは決してありません。身近にある小さな自然の中で子どもたちは、さまざまな体験を通して命の大切さ、尊さ、共に生きる楽しさなどたくさんのことを学び、心豊かな人間へと成長してくれることを願っています。

今、非認知脳力といった見えない力を育むことの重要性がつつやかれています。非認知脳力とは、忍耐力、社交性、思いやり、自尊心などを備え、友だちと力を合わせて物事を成し遂げる力のことです。この力は、教えられて身につく力ではなく、あそびの中で考えたり、工夫したり、友だちと協力したり、けんかをしたり、許し合ったりなどのさまざまな実体験の中でしか育まれない力です。ピオトープには、この力を育む要素はたくさんありますが、すいこうでのあそびの中にもたくさんあります。年長さんや年中さんが映画館ごっこやおまつりごっこをやりたいと言葉にして伝え、それを実現するためにどうしたらいいか話し合い、友だちと一緒に材料を集め、やりたかったあそびを実現させています。大成功と喜んだり、逆にうまくいかなかったことには再度挑戦しています。また、年少さんは、そんなお兄さんたちの姿にあこがれたり、一緒に遊んでもらうことを嬉しく思ったり、2歳児さんは、大好きなカブトムシに「かぶちゃん」と名前を付け、粘土や新聞紙でごちそうを作ってあげたりしています。0.1歳児さんも見えたもの、聞こえたものに興味を示し、手を伸ばして触ろうと自ら身体を動かしています。そして、そんな子どもたちの姿をいつも笑顔で見守り、驚きと感動を受け止めてくれる大人、「もっとやってみよう」と思えるような環境を作り、一人ひとりの個性を認めながら関わっていく大人の存在は不可欠です。これからも、こういったあそびを繰り返し、一人ひとりの非認知脳力を育てていければと思っています。

まだインフルエンザなどの流行は見られませんが、小さいお子さんは、重症化してしまうこともあるので、下痢嘔吐などの感染症も含め、手洗い・うがいを励行して、予防に努めて寒い冬を乗りきりましょう。

園長

七草粥

お正月を過ぎて、7日の朝食に七種類の野菜を入れた粥を食べます。早春の野山に咲く若草を食べることによって、自然界から新たな生命力を得ることができ、無病息災で長生きできるといわれています。

また、七草には、消化を良くする成分やビタミンCが含まれているので、お正月のご馳走で弱り気味の胃を少し休めようという知恵から始まったともいわれています。

春の七草って？

せり・なすな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしろ



子育てメッセージ

「見てね〜」
 「うん、見てるよ!」

子どもは、お父さんやお母さんに、いつでも自分を見ていてほしいもの。でも、忙しい毎日、子どもの「見てね〜」という言葉について、「今は忙しいの」なんて言ってしまいがちですよね。「うん、見てるよ!」と、言葉を返すだけでも子どもは安心するものです。

全国私立保育園連盟
 子育てメッセージより

